

# 農業経営改善計画認定申請書 項目別記載例

項目		現状（前年若しくは現年の実績）	目標（現状年+5年）	
① 目標とする営農類型		畑作専業、畑作野菜、畑作法人、畑作育成、畑作和牛 酪農畑作、酪農専業、酪農法人 他		
② 経営改善の方向の概要		規模拡大・集積等によりほ場効率を向上し、生産コストの低減を目指す。 将来的には、〇〇ha規模の〇〇経営を目標に、安定した経営を目指し、ゆとりある生活を実現したい。 将来的には、飼養頭数〇〇頭、経営面積〇〇ha、自給飼料100%を確保して安定した経営を目指し、ゆとりある生活を実現したい。 営農に関する重要データを収集・分析して、経営の問題点や方向性を認識する。 現在は緑肥、堆肥等が不足した畑地があるので、将来的にはデントコーンを交換耕作するなど酪農家との協力関係を築き、地力維持に努めたい。		
③ 農業経営規模の拡大に関する目標	作目・部門別	【現状は実績にて記入する(年度途中であれば前年度実績を記載) 生産量の欄は、単収を記入しないこと。】	【目標生産量は基本構想の基準単収以上となるよう設定する。 目標所得(800万円)に向けてどのような経営形態とするのか明確にする。(規模拡大?単収アップ?)】	
	経営耕地	所有地	【規模拡大により資金借入を予定している場合は、所有地の拡大は必須】	
		借入地	【農地保有合理化事業を予定している方は整合性をとること。】	
		合計	【経営面積合計と整合性をとること。】	
	作業受託	【作業受託は作物別に基幹作業(例:〇〇播種、〇〇収穫)別に作業受託面積を記載する。換算後の欄は、(作業受託面積×作業数/全作業数)により換算した面積を記入する。】		
その他の関連・附帯事業	【農産加工等を行っている場合には記入する。】			
④ 生産方式の合理化の目標	農用地の利用条件	ほ場が分散している。	ほ場の集積を図る。	
		圃場1区画の大きさが狭い。	圃場1枚を拡大し機械作業の効率化を図る。	
		圃場に礫が多い	除礫、粉碎を施行する。 ストーンクラッシャーを導入する。	
		排水不良により、作業できるまでの日数が多く、作物の劣化を招いている。	暗渠、明渠、有材心土破碎などを施行する。	
		傾斜地が多い	傾斜に強い機械の導入や栽培方法を研究する。	
		地力が弱い、肥料代等コストが大きい、収量の伸び悩み	堆肥・緑肥投入による土づくり 土壌診断に基づいた合理的施肥	
		ダイズシストセンチュウが多発する畑がある。	野生エン麦やクローバーなどの休閒緑肥を導入するなどの対策を図る。	
	作目・部門別	豆類	輪作が不十分である。	輪作体系の確立。
		スイートコーン	作付けなし。	地力維持のための作付け。
		小麦	連作が続いている。	〇〇の導入により輪作体系を確立する。
		〇〇	播種時期が遅れる。	適期播種の実施。
		和牛	なし	和牛の繁殖を導入する。
		搾乳牛	人工授精による受胎	受精卵移植による和牛販売の
		牛舎	繋ぎ飼いによる飼育管理	フリーストールによる大規模牛群管理とパーラーによる搾乳作業
		フリーストール	1群管理により、増体や乳量にパラツキが見られる。	乳量・乳質などの個体管理を行い、2群に分けて管理する。
生乳	乳質が悪い。	乳質改善の実施。		
飼養管理	受胎の遅延、飼料コストが掛かり過ぎる 乳量伸び悩み	繁殖管理の徹底、飼養管理の徹底 良質飼料の確保		
牧草	草地更新の遅れによる収量低下	計画的な草地更新に努め収量増を図る。		

項 目	現状（前年若しくは現年の実績）	目標（現状年+5年）
⑤ 経営管理の合理化の目標	<p>簿記記帳していないので、経営の状況がしっかり把握できていない。</p> <p>家族の役割分担が曖昧である。</p> <p>部門別、作業原価の把握 防除履歴、作業日誌の作成</p>	<p>青色申告の実施。パソコンによる経営管理。複式簿記の実施。機械の計画的更新。</p> <p>パソコンを利用した圃場管理、施肥設計、肥料在庫管理を行う。</p> <p>家族協定の締結。 法人化を目指し準備を行う。</p> <p>低コスト化と付加価値の創造を求める。 データの活用により、作業の簡素化を図るため年間スケジュール表を作成する。</p>
⑥ 農業従事の態様等の改善の目標	<p>機械の共同化できる部分が共同化されていないため作業時間が長い。</p> <p>定期的な休日がない。 家畜飼養により年間を通して休日がない。</p>	<p>農業機械共同化による作業時間の短縮。作業の共同化を進める。 共同経営を検討する。</p> <p>休日制の導入。 ヘルパー制度の活用による労働負担の軽減を図る。</p>
⑦ 目標を達成するために取るべき措置	規模拡大・農地集約	<p>本認定制度を活用して、農業委員会から条件の良い農地の情報提供を受ける。 農地保有合理化事業を活用して規模拡大を図る。 農作業受託集団へオペレーターとして参加し、実質的作業規模の拡大を図る。</p>
	生産方式の合理化	<p>畑作4品とスイートコーンを取り入れた輪作体系の確立を図る。 コスト低減のため3戸共同の機械利用を図る。 麦作集団による小麦の収穫と乾燥調整を行う。 土壌診断の実施。 基盤整備の実施により生産性の向上を図る。 経営内副産物の堆肥及び麦稈を有効利用し、地力向上に努め、単収向上を図る。 少量散布防除機の導入など、近隣環境に配慮した作業体系を確立する。</p>
	経営管理の方法	<p>パソコンによる経営管理、労務財務、ほ場管理を行う。 部門別、作物別原価の把握分析。営農情報の収集。 農業機械、施設の適正保守管理と計画的更新による装備水準の維持。 青色申告実施。 簿記、農作業日誌の記帳により経営分析を行い、次年度以降の経営改善を図る。 牛の個体管理を乳検データで把握し、飼養管理へ利用、経営の合理化を図る。</p>
	農業従事者の態様等	<p>農業機械の共同化による作業時間の短縮。 作付面積の増加に伴い、雇用労働の安定確保を図る。 コントラクターを利用した収穫作業労働の軽減。 ヘルパー制度を活用し、労働負担の軽減を図る。 家族労働の作業分担、機械の共同利用や共同作業により省力化を図る。</p>
(参考) 農業労働力	<p>【家族農業従事者、農業生産法人の構成員、常時雇用、臨時雇用について、規模拡大程度や年間労働時間等と整合性をとる。】</p>	

※ **ゴシック太文字** は記載例。  
 ※ **【明朝斜体】** は考え方。